

特集

# 津波

## 秋田沖の教訓をいかそう



五月二十六日、秋田沖を震源地として起こった大地震は、北海道から島根県までの広い範囲で津波を発生させ、多くの犠牲者を出し、その恐ろしさを強烈に印象づけました。太平洋に面するわが町にとつて、それは対岸の火事として見過ごすことのできない重大事と言えます。

# 日頃からどこの日への対策を

### 海洋国日本の宿命

「ツナミ」は国際語としても通用する、海洋国日本の名物であり、宿命でもあります。しかし、地震の恐ろしさは知っていても、津波の怖さを知らない人が多いのは、ここ数十年来、津波による被害があまりなかったためではないでしょうか。

### チリ地震が示した猛威

津波の怖さを示すものとして、昭和三十五年の南米チリの大地震があげられます。この時の津波は、赤道を越え、二万キロも離れた地球の反対側にある日本の沿岸にまで押し寄せ、多くの死者を出しています。

### 津波はどうして起こる

津波は、海底地殻の大変動に伴って起こります。海底で大地

果たして津波は防げるものだろうか——九十九里浜襲来の可能性はあるのか——郷土史研究家、伊藤一男さん（屋形）のこの協力を得ながら、防災上の重要課題として浮上してきた「津波」にスポットを当ててみました。

震が発生し、地盤が急激に盛り上がり沈下したりすると、海水が押し上げられたり落ち込んだりして津波を起します。

したがって、海底で地震が起れば、津波が起こるものと考へなくてはなりません。

### 房総は津波型地震

地震には、ガタンとくる直下型のもと、横にゆっくりと揺れる海洋型とがあり、地震そのものは直下型の方が怖いとされていますが、津波は海洋型に多く、房総半島で起こる地震の多くはこの海洋型といわれています。

### 驚くべき速さ

津波の発生する地震は、マグニチュード5.0以上といわれていますが、津波の大きさは必ずしも地震の大きさに比例するものではありませんので、油断は禁

物です。

また、津波の伝わる速さは、深さ四千メートルの海で毎秒二百メートルと、ジェット機並みのスピードで襲ってきます。ですから、最初の判断を誤ると、もう逃げ切れなくなります。

### 九十九里浜にも来るのか

古い歴史をひも解くと、大きな被害を受けた記録があります。

### 主な津波の被害

発生日時	災害名	マグニチュード	津波の高さ	死者
1703.11.23	元禄地震	8.2	12.0m	多数
1854.11.4	安政地震	8.4	10.0m	3,000人
1896.6.15	三陸地震	7.6	24.4m	27,100人
1933.3.3	三陸地震	8.3	24.0m	3,000人
1946.12.21	南海地震	8.1	6.0m	1,400人
1960.5.23	チリ津波	8.5	6.0m	119人

### 防災無線を検討

今回の惨事で、連絡の遅れが指摘されましたが、緊急な連絡が必要なことは言うまでもありません。町では防災無線等、緊急通報の方法を検討中ですが、各地域でも、自衛策を十分に立てておく必要があるでしょう。

### 津波への心得

とりわけ、海岸近くの方にとつては最も心配のあるところでしょうが、気象庁では次のような心得を示しています。

- (一)「地震＝津波」といった意識を持つ。また津波は速いものという認識に立ち、大地震があれば即座に避難する。
- (二)日頃から避難場所を決めておく。(なるべく高い所がよい)
- (三)津波は第二波、第三波と、繰り返して襲ってくるので、警戒解除まで気をゆるめない。
- (四)注意報ぐらいでも、海水浴や磯釣りはやめて遠ざかる。
- (五)情報は、ラジオや広報車など